

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成27年度 兵庫県農業気象技術情報第6号(10月情報)について(送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>1 生育状況            中～晩生品種の出穂期は、平年並み～やや遅い。中～晩生品種の成熟期は低温の影響でかなり遅くなると見込まれる。</p> <p>2 病害虫            ヒメトビウンカの発生は平年並みと予想される。</p>	<p>1 生育状況            出穂後の積算温度は1,000℃～1,050℃が必要で、適期収穫に努める。収穫籾は急速に乾燥させないように注意する。毎時乾減率の目安は、0.8%以下である(酒米は0.5%以下)。</p> <p>2 病害虫            イネの刈り取り株のひこばえは本虫の生息場所となるので、今年縞葉枯病が発生した地域では収穫後すみやかにすき込む。</p>
大豆	全県共通	<p>1 生育状況            低温の影響で生育はやや遅れている。</p> <p>2 病害虫            (1)立枯性病害は、平年並みの発生と予想される。            (2)吸汁性カメムシ類、ハスモンヨトウは、平年並みの発生と予想される。</p>	<p>1 生育状況            普通大豆は適期収穫に努める。            サチユタカは刈り遅れると、裂莢しやすく、品質が低下する。            &lt;刈り取り適期の目安&gt;            ・子実水分20%程度(莢を振ると音がする)になったとき。            ・コンバイン収穫の場合は、茎水分50%以下になったとき。目安としては茎がやや黒みを帯びて、手でポキッと二つに折れるとき。刈り取り前には青立ち株を引き抜く。            黒大豆は排水対策に努め、土壌水分を適切に保つ。</p> <p>2 病害虫            (1)ほ場の排水対策を行い、発病しにくい環境を作る。            (2)ほ場をよく観察し、必要に応じて防除を実施する。</p>

作物 地域	栽培上の留意点	対 応 策
麦 全 県 共 通	<p>1 栽培管理</p> <p>&lt;播種準備の留意事項&gt;</p> <p>(1) 計画的な播種を行うため、水稻刈り取り後、出来る限り早く、ほ場の排水対策を行う。</p> <p>(2) 出芽、初期生育を良くするため、ほ場のpH調整を十分に行う。pHが低いと生育不良を招く。</p> <p>(3) 有効茎数を確保するため、地域に合った播種時期・播種量とする。</p> <p>(4) 施肥播種機の調整をしっかりと行う。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 水稻の刈り取り後、耕うん前に弾丸暗きよや額縁明きよを設け、表面排水を行う。特にほ場の四隅がコンバイン収穫時に轍(わだち)ができないようにする。本暗きよがない場合は、通常の弾丸暗きよの設置に加えて、排水口手前を40cm程度掘り下げ、3本程度の放射状の弾丸暗きよをサブソイラーで施工する。</p> <p>(2) 石灰質資材は早めに施用し、土壌pH6.0～7.0になるように調整する。土壌pHが低いほ場は、施用量を増やす。ただし、施用後、播種直前までは耕うんしない。</p> <p>(3) 耕うんは播種直前に行い、県北部及び中山間部では10月下旬から、県南部では11月上旬から播種を行う。 播種量は10a当たり、10月下旬で6kg、11月上旬で8kg、播種時期が遅くなれば、播種量を増やす。ただし、「ゆめちから」は10月下旬から播種を行う。</p> <p>(4) 播種前に播種量、施肥量、播種深度を調整してから播種し、播種時に微調整する。播種後、排水溝の設置、手直しを行う。</p>
キ ャ ベ ツ 全 県 共 通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 9月上旬に天候が悪く、植付けが遅れたほ場がみられる。</p> <p>(2) 適切な時期に追肥、除草を行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガは、平年並みの発生と予想される。</p> <p>(2) ハスモンヨトウは、平年並みの発生と予想される。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 排水不良は、生育を著しく遅らせるため、ほ場の排水溝の確保に努める。 特に、排水口付近にたまった土砂や降雨で崩れた畝を再度、管理機等で谷上げを行う。 風雨で茎葉が傷んだ場合、病害の発生に注意し早期に防除する。 生育が遅れている場合、液肥の葉面散布が早期回復には効果がある。</p> <p>(2) 1回目の追肥は、条間に施用し追肥時期が遅れて作業が困難にならないよう注意する。追肥時に三角ホーなどで雑草防除も行なう。 2回目の追肥は、結球開始初期に畝肩か畝間に施用する。 追肥は遅れないように計画的に行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) 育苗期の加害は致命的なので、不織布や寒冷紗などにより本虫の飛来・産卵を避ける。</p> <p>(2) 本虫は、発生初期に対応する。被害が大きいため早期防除に努める。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策		
果樹	全県共通	<p>1 生育</p> <p>(1) 高温や降雨による果実品質の低下に留意し、適期収穫に努める。</p> <p>(2) 障害果や腐敗果等の除去に努める。</p> <p>(3) 収穫後は、樹体栄養の回復を速やかに図る。</p> <p>樹種別の生育状況</p> <table border="1"> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>夏期の多雨で、果実の肥大は良く酸抜けは早いですが、日照不足の影響もあり、糖度が低い傾向である。また、一部で果実の裂果が発生している。</td> </tr> </table>	温州ミカン	夏期の多雨で、果実の肥大は良く酸抜けは早いですが、日照不足の影響もあり、糖度が低い傾向である。また、一部で果実の裂果が発生している。	<p>1 生育</p> <p>(1) 熟度や果皮色等から、収穫適期を判断する。</p> <p>(2) 温州ミカンの日焼け果は裂果しやすく、病害の発生源となることから仕上げ摘果や樹上選別で除去する。 イチジクの落果や腐敗果は、ショウジョウバエ類の発生につながるため、できるだけ早く園外に持ち出し処分する。</p> <p>(3) 樹体栄養の回復を図るため、礼肥の施用、少雨時の灌水を行う。</p>
温州ミカン	夏期の多雨で、果実の肥大は良く酸抜けは早いですが、日照不足の影響もあり、糖度が低い傾向である。また、一部で果実の裂果が発生している。				

◎野菜・果樹の情報については、原則2ヶ月ごとに作成します。  
◎防除については「病害虫発生予察情報」及び「兵庫県農薬情報システム」を参考にすること。  
※本情報は、9月29日時点のデータを元に作成しています。

## 2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（9月26日～10月25日）  
[平成27年9月24日 大阪管区气象台発表]

【概要】期間の前半は、気温がかなり低くなる可能性があります。  
天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。  
向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。  
週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、低い確率50%です。

### 【確率】

○気温、降水量及び日照時間



○各週の気温経過





(2) 近畿地方の向こう3か月予報 (10月～12月)

[平成27年9月25日 大阪管区気象台発表]

【概要】 この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

11月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

12月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で多い確率50%です。

【確率】

○気温

【近畿地方】 □低い □平年並 □高い (単位:%)

3か月	20	40	40
10月	40	30	30
11月	20	30	50
12月	20	40	40

○降水量

【近畿日本海側】 □少ない □平年並 □多い (単位:%)

3か月	20	40	40
10月	30	40	30
11月	30	30	40
12月	20	40	40

【近畿太平洋側】 □少ない □平年並 □多い (単位:%)

3か月	20	40	40
10月	30	40	30
11月	20	40	40
12月	20	30	50

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」 <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「兵庫県農薬情報システム」 <http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「Web 水稻生育予測システム」 <http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稻生育予測」 <http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711(代表)
- 農産班: 農産担当 内線 4065
- 農産班: 産地育成担当 内線 4054
- 花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
- 企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
- 農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
- 農業技術センター 病害虫部 TEL (0790) 47-1222
- 北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
- 淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : [http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11\\_000000097.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html)

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)